

# 健康と光線

## 増加する慢性病

近年、医学はあらゆる分野で大幅な変貌を遂げつつあります。診断面では、画像診断をはじめとして長足の進歩を遂げました。そのため病気を見付けるのが上手になりました。治療面では、病因についての研究が進捗し、理論に基づいた新薬も次々に開発されています。これからは遺伝子治療も盛んになるものと思われまます。

それやこれやで医療費に大変なお金がかかるようになりました。しかし患者側から見ても大切な、治るか治らないかで比べると、殊に慢性病で思うような成果は挙がっておりません。事実、どこの病院も何年も通院を続けている慢性病患者であふれていて、急病の人は入院すら中々させて貰えないのが実情です。このような治療の状況を、船頭多くして船山に登る、と例えては失礼かと思いますが、日

暮れて道遠し、の感なきにしもあらずです。

## QOL(生活の質)とは

医学の進歩に伴い、単に延命のための医療も進歩しましたが、ご存じの通り様々な問題を投げ掛けています。特に全く絶望的な患者に塗炭の苦しみを与える終末医療(ターミナルケア)に対する疑問(管を

身体の外に挿入する所に入れ、生命維持装置を働かせて、意識がなくなってもただ生きていて、このように死ぬに死ねない状態にすることをスパゲッティ症候群と言うそうです)が、QOL(生活の質・クオリティ・オブ・ライフの略)という言葉を生む切っ掛けになりました。要は医療はすべて医師の裁量に任かされて

いるのではなく、患者が何を望

## QOL(生活の質)を高める

### サナモアで手づくりの治療

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士

宇都宮

光明

るといふ考えです。具体的には、末期癌患者のQOLを高めるには如何にすべきか、と言うようなことが議論されるようになりました。

## 薬剤副作用とQOL

このように医師のサイドから論じるQOLは、死が迫った患者の苦痛をとることや様々な病気の症状を和らげることが中心

み、何を必要としているかを理解した上で援助することが、患者が人としての尊厳を保ち、その人らしく生をまっとう出来ることであり、患者のQOL(生活の質)を高めることにつなが

なっています。無論、この点も大切なことを否定する気はありませんが、患者サイドから特に注意を喚起したいのは、薬剤副作用とQOLの関連です。実際、病院にかかっている殆どの患者が投薬を受けていますが、薬には必ず副作用がありますから、長期に連用する際、副作用が患者のQOLを阻害してないかについて特段の注意が必要になります。一例を挙げれば、わが国で様々な慢性疾患に精神安定剤が頻繁に用いられており、その使用量は諸外国と比べても飛び抜けて多いことが以前から指摘されておりますが、患者の職業や生活習慣によつては、QOLに大きな支

障となるはずで、従って、薬の服用中に少しでも気になると(副作用)があったら、医師任せにしないでどんどん医師に申し出る必要があります。

## QOLを高める光線療法

現代医学は即効性のある対症療法を活用して、急場を凌ぐ上でそれなりの成果を挙げていますが、慢性病では病気の自然経

過そのものを変えるまでには至っておらず、むしろ再発を繰り返す傾向を強めています。そのため経過を追いつながら服薬は長年月にわたることが普通ですが、いくら検査値が良くなっても、薬の副作用で健康感を損なってはQOLは台無しです。QOLを保つ上で、体調が優れ健康と感じられるか否かも極めて大切だからです。

われわれはQOLを高める知恵を太陽を中心にした自然の生態系の仕組みから学ぶべきです。健康を保ち、病を癒す上で、各人が保持する神秘的な生命力が大きく係わっていますが、太陽光線こそその生命力を高める根源であり、かけがえのない名医だからです。この太陽光線の神秘的な力を丸ごと応用したのがサナモア光線療法です。サナモアは受けて気持ち良く、生体の生理機能を賦活し、健康を取り戻すことによつて病気を改善し、抗病力を高めて病状を改善し、根本から治療に導くことを目的とした治療法であり、副作用を気遣う必要はありません。このサナモアを様々な病気の治療に応用する手づくりの治療で、自らの健康感を取り戻し、QOLを高めることに役立てて下さい。

発行所

〒153  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

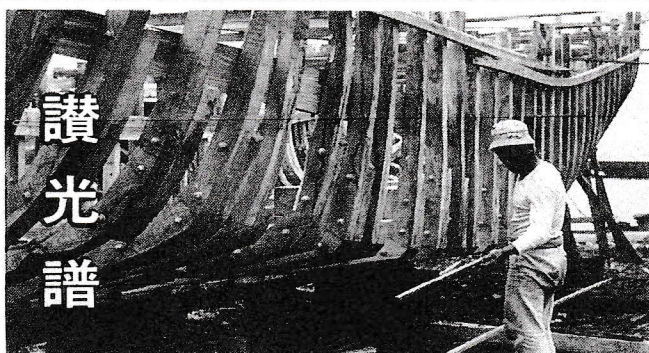
サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322



船  
大  
工

宇都宮義真撮影

讃  
光  
譜強  
壯  
な日  
本  
民  
族  
の  
先  
祖

今から約三八〇年前に渡来した宣教師クラッセの著した「日本西教史」に、「日本全州を一大戦場というも誇大に非ず。日本人は強壯にしてよく戦闘に耐久。身体長大にして精神活発なり」と書いてある。これを讀んでも、往時の日本人は西歐人に比し、より以上の強壯な身体を備えていたであろうことは想像に難くない。

吾人の祖先が如何に強健無比であったかは、今に残る鎧や槍や薙刀のような武器を見れば一見して明らかである。堂々たる体軀風貌をし、これらの武器を自由自在に駆使して終日山野で闘った有様を想像するだけで、血わき肉おどるものがある。

著  
し  
い  
体  
位  
の  
低  
下

然るに、昨今の日本民族の体位は著しく低下した。わが国の壮丁検査(徴兵検査)の成績を見ると、百人中の四十五人は兵役に適さない丙種、丁種である。徴兵適齢者の国民の約半数が丙丁組というような国は世界中に

ない、という。陸軍省医務局長は、「外国人と比較して、活動力は著しく劣勢で、如何なる労働にも耐え得る者は百人中二、三人の有様で、現状は病人同様ものにならない者が三、四十人を占めている」と話している。これではどうして昔の日本人と今の日本人が同一民族と思えようか。嘗て強健無比なりし日本民族は今いづくにありや、と言いたい。

国民の体位向上が叫ばれるのはそのためである。しかれば如何にして体位を改善するのか。運動もよからう。栄養もよからう。しかし運動選手には常人よりも短命者が多く、病気の大多数が栄養不足によるより過食にあることは考えねばならぬ問題である。

吾人は病弱であつてはならぬ。吾人の家族、吾人の国家に一人も病弱者があつてはならぬ。もし健康を欠けば、例え英才に恵まれても、例え資産があつても、総て無茶苦茶になるであらう。最後の勝利は健康者に帰するのである。各人の健康が各人の運命を決し、国民の健康がその国の国運の消長を決定する。電車

に乗っても、バスに乗っても、青白い顔をして居眠りしているような半病人の一人も居ない日本を建設したいのである

光  
線  
で  
昔  
日  
の強  
健  
体  
を  
再  
現

光線が皮膚に触れると、体内

強  
健  
無  
比  
な  
身  
体  
を  
造  
る宇  
都  
宮  
義  
真

にあるエルゴステロールというものからビタミンDが合成され、これがカルシウムの吸収、利用を可能にし、丈夫な筋骨を形づくってくれるのである。このビタミンDは普通の食物には含有されていないが、肝油には相当

含まれている。それで腺病質な子供に肝油を摂らせるとよい、と言われているのである。古くから肝油には虚弱で腺病質な体質を改造する上で力がある、と理屈抜きで経験から知られていたが、理論面で裏付けられたのである。しかしビタミンDは光線を浴びてさえいれば、肝油から間接に輸入しなくても、光線から直輸入することが出来るのである。

光線はかように生体の成長、発育、健康維持に欠くべからざる栄養の素になっている。従つて、適当な光線を常に補充することは最も合理的な健康法であり、体位向上を図る上で欠くことの出来ない手段である。光線に親しむことで、昔日の強健無比な体位を再現することは決して不可能でない、と確信する。来たれ！而して吾人と共に健康の峰に登ろうではないか。

「光と熱」

昭和14年1月1日発行

—電磁波—

昭和14年3月1日発行

—強健無比なりし日本民族の子孫—を要約した。



# 月経異常

育美健康光線療研

前田 ミサ

## 月経異常

月経とは規則正しい一定の時間の間隔を以て周期性に反復する子宮粘膜からの出血現象であり、思春期に入ると始まり、更年期に及んで漸次に終絶します。このように月経は女性の生体内で周期的に起こる波動現象の外表現であり、内分泌系機能(視床下部・脳下垂体・卵巣)が関与する生理的な現象のため、月経が平常通りに反復せず、多少とも周期性は認めるとしても、その周期がくるったり出血量に異常がある場合には月経異常として精査の対象になります。

即ち、月経異常は月経発来に関する内分泌系の機能障害や子宮のような婦人科臓器に異常があると起こしますので、殆ど全ての婦人科疾患で認める最も重要な徴候になります。従って、その原因が一定の組織や臓器に形態学的な変化を認める器質的なものか、ホルモンの異常による

機能的なものか、よく区別してから治療する必要があります。ところで光線には内分泌系の高位中枢の視床下部を始め様々な内分泌臓器に作用し、その働きを調整する作用があります。今回、内分泌系機能に由来すると考えられた月経異常の治療例を通して、光線療法が内分泌系機能を刺激し、その作用を調整することを述べます。

## 月経不順

月経の周期が各人によって異なり、同一人でも毎回必ずしも一定不動でなく多少の変動のあることは、月経の本態から考えても当然のことです。そこで各人が自分の月経の周期性が保たれているか否かをどう判断するかが問題になります。

最初の症例は四十歳過ぎの方です。「メンスが始まってからこれまでくるったことがなく、五、六日以上遅れた時には何時も妊娠につながっていたので、この二日間位、どうにも落ち着いて仕事が出来ません。この年で心配なので、何とか光線療法で助けてくれませんか」と月経不順を訴えて来所されました。私は、「妊娠していれば生理が遅れるのは当然なので、差し当たり月経不順として治療しまし

よう」と話し、このような月経不順の際の光線療法をすることにしました。

カーボンはBとBを組み合わせ、照射部位は、腰部、生殖器に通じる神経中枢がある仙骨下部、子宮や卵巣など婦人科臓器のある下腹部を主にし、照射面積は全開であつたり第一集光器を使って絞つたり適宜に変更して、それぞれ合計で1時間程度照射しました。なおこれ以外に、足裏、膝、後頭部、背に各5-10分照射しました。

この治療で月経がない時には続けて来所することを約束して帰宅されました。翌日の午後に来所され腰を下ろすと同時に、「先生、お陰様で今朝からメンスが始まりました。ほっとするやら嬉しいやらで参りましたが、今日も治療した方が良いでしょうか」と尋ねられたので、「メンスが平常と変わらない状態なら治療しなくても良いと思いますが、光線療法は健康法にもなるし、これからのこともあるので心配なら治療したら」と勧めたため、その日は治療してから帰られました。安心した様子がよく分かりました。

その二、三日後に別の四十歳の女性が同じような月経の遅れを訴えて来られました。この

方は、「メンスが十一、十二日程遅れています。既に大きな子供もいますし、お勤めもしていますので、心配で治療をして貰おうとお願ひに参りました」と頭を下げます。私は、「月経不順なら、一週間位治療すれば月経が始まると思いますが、効果が無い時は妊娠している可能性が高いので、月経不順の治療は止めます」と話し、前の人と同じように治療しました。その結果、六日目から月経らしきものが始まり、そのまま治療を続けたところ、翌日、翌々日になって全く平常通りの月経の状態になりました。

「お勤めしていますので、これから月経不順があったら早めに参ります」と嬉しそうな表情で帰られました。

## 月経過多症

月経過多症は、子宮筋腫のような器質的疾患に伴うものもありますが、機能的なものでは、内分泌機能、中でも卵巣機能が関係します。むろん経血量は月経中安静にしていれば少なくなるのを常とします。

私の治療院に、若い未婚の女性が機能的な過多月経を主訴に来所しました。「毎月、メンスの期間中は、静かにしていて立

ち上がろうとしただけでも生理に伴う出血が増し、流れ出るようになるため、すぐに静かに横になっているしかなく、日常生活の何でもないような行動すら全く出来ないため困っています」と言っていました。

治療は月経不順の際と異なり、カーボンは適宜AとCやCとCを組み合わせて使用しましたが、照射部位は月経不順で述べたのと殆ど同じです。

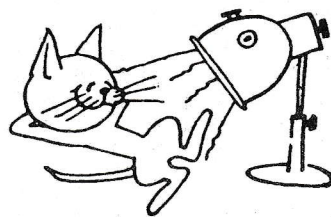
まず一週間程通院治療してから、次の月経を待つことにしました。なお日頃から日光と仲よくして、食事はカルシウムや緑黄色野菜を多めに摂るようにし、動物性蛋白や甘いものは控えるように話しておきました。患者は「先生の光線と仲良くなり時々参りますので、その節はよろしく願ひします」と言

って帰りました。次のメンスの時に電話がありました。「先生、今月はお陰様でメンスのことを気にしないで平常通りの生活をしています。色々ご指導を有難うございました。これからもアドバイスを宜しく願ひします」と言いますので、「一に光線、二に食

養」と申しておきました。

福岡県春日市桜丘8-13  
TEL 〇九二一五八一二〇三九





## — 治 験 例 報 告 —

### ☆ よ う

症例 55歳 男性 自営業

症状 右腹部に小さな吹き出物が出来たと思っていたら、日が経つに連れて大きくなり赤く腫れてきた。初めは小さかったし、こりも段々と大きくなり、二つ、三つと口が開いて膿が出始め、熱も出てきた。医者に行くように勧められて手術されるからと嫌がる。そんな折りに娘の嫁ぎ先から光線療法を受けてみたらと勧められて来所した。

来所時の患部の所見は、子供のこぶし程の大きさに腫れて激しく痛み、かなりの高熱を伴い、三ヶ所の口から膿が出ていた。

身長 163cm、体重 70kg

療法経過 患部はBカーボンとCカーボンを組み合わせ、集光器を使用して30分、外にAカー

ボンとBカーボンで腹部10分、背5分、腰10分、膝10分、足裏20分照射したが、治療してから痛みが軽くなり、その夜は久し振りでよく眠れた、と言っていた。翌日から治療器を借りて自宅で治療を続けることにしたが、患部は日に三回、それ以外の部位は日に一―二回照射するように指示した。

治療を始めてから三日目には殆ど平熱に近づき食欲も出てきた。照射すると膿がよく出る。五日目にぶり返したように痛みがひどいと連絡があったが、心配ないから続けるように指示する。次の日、本人が驚く程大量の排膿があったと家人が知らせてきたが、それからはすっかり熱が下がり、食欲は平常通りで食事の量も元に戻り、ぐっすりと安眠出来るようになった。

その後の回復は極めて順調で、膿の排出量は日毎に少なくなり、二週間後には膿も出なくなった。

三週間後には膿の排出口は全てふさがり、跡形もなく完治した。  
神戸市 ウエノ光線療研  
上野 健太郎氏報告  
TEL0七八―三三二―一三五八

### ☆ 冷え症

症例 43歳 女性

症状 若い頃から夏の暑い盛りでも手足が冷え、医師からは冷え症と診断され投薬を受けたことがあるが、冷えの症状はそのまま続き、これまで悩み通してきた。その上、最近になって手足だけでなく身体全体の冷えがひどくなり、寝ようとしても何時までも身体が温まらないためなかなか寝つけない。それに朝起きようとするとき腰が痛く、坐骨神経痛もあり、知人に光線療法しかないとい勧められたため来所した。患者の話を聞きながら来所時の一般状態を観察したが、見るからに弱々しい感じで顔色は青

## 「愛用三者」だより

### 前立腺肥大

東京都足立区

稲葉俊夫

現在60歳になります。50歳

始め頃、突然の高熱と血尿にビックリ、大学病院で前立腺肥大と診断されました。薬で様子を見ながら最悪の場合は手術との事。

以来、毎日サナモアを腰、腹、肛門に照射、三ヶ月位で

尿の出が良くなり、回数も減って遠出も不安なく出掛けられます。今は通院は全くしていません。しかし、サナモアだけは毎日欠かさず続けており

感謝の毎日です。

## サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた書籍「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA、B、C、Dと効果が同じという根拠も無いという文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社(サナモア)のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

白く、患者の訴え通り手足だけでなく腰や腹も冷たく、さも病人のように見受けられた。

療法経過 カーボンはAカーボンとBカーボンを組み合わせ、同時に二台の治療器を用いて照射した。照射部位ならびに時間は、まず側臥位で臀部10分、顔5分、足首5分、次に腰15分、喉10分、膝5分、次に腹15分、背5分、足裏10分照射してから仰臥位にして甲狀腺部に左右か

ら10分、肩に左右から5分、腰に左右から10分、膝に左右から5分を基本に、患者の訴えや一般状態を注意深く観察しながら、照射部位の追加、変更、照射時間の長短を決め、通院治療を継続した。

治療を始めてから漸次に症状は軽減し、三ヶ月経過した頃には冷え症は顕著に改善し、腰痛、坐骨神経痛の痛みも消失したので、その後は冷え症が再燃するのを防ぐと共に健康保持を兼ねて自宅で光線療法を続けることにした。

現在、患者は光線療法を愛用しながら見違えるほど元気になったが、体質から改善できた大変喜んでゐる。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL0四四―七二二―五〇六七



# 光線の消化器系に及ぼす影響

—特に生体内活性物質の作用について—

医学博士 宇都宮 光明

光線療法は食欲を増す

食欲がなく、消化、吸収が悪く、肝心の体力がなくなるの状態で抵抗力を失い、いわゆる悪循環の状態でマイナスに働く。反面、食欲が増し、消化、吸収が良くなれば、体力が増すので、悪循環を断ち切り、あらゆる場合にプラスに作用する。

この単純にして明解な事実を敢えて述べたのはあらゆる病気の治療において、栄養の持つ意義は決して軽くはないからである。

ところで、

“光線療法をしたら食欲が増した”と言う人は多い。実際、消化器系疾患の患者だけでなく、さまざまな病気で光線療法を経験した人が異口同音に口にする。では光線療法で何故食欲が増すのだろうか。今回は光線によって生成される光化学物質が消化器系に及ぼす

さまざまな作用について考察する。

生体内活性物質（オートコイド）について

光線療法の効果は、光線の生体に及ぼす生理作用によってもたらされる。その詳細については未だに解明されていない点も多いが、従来からさまざまな面から論じられている。中でも主として紫外線により生成される光化学物質が生体内活性物質（生理活性物質またはオートコイドとも言う）として、間接的に消化器系に及ぼす生理作用は重要である。

生体内活性物質について付け加えておく。生体内で情報を伝達する物質としてホルモンや神経伝達物質がよく知られているが、これと異なる化学的作用物質として、生体内に存在して、ある条件下で活性化され作用する物質群があり、これを生体内活性物質と言う。これら生体内活性物質としては、ヒスタミン（ヒスチジン）、セロトニン、キニン、アングiotenシン、プロスタグランジン、トロンボキサン、ロイコトリエン、ブラスミンなどが知られており、それぞれ構造式はまちまちであるが、作用領域、作用時間はほぼホルモンと神経伝達物質の中間に位

置する物質群である。光線は生体内活性物質を生成する

ところで光線（主として紫外線）を照射すると、光化学反応によって光化学物質（光産物）としてのビタミンDが生成され、ホルモンとしてさまざまな臓器器官に作用することは広く知られているが、これ以外にも数多くの化学的作用物質が生成され、生体内活性物質として作用する。これら光線により生成される化学的作用物質については明らかにされていない部分も多いが、これまでの研究からおおよそ次のように考えられている。まず

光線を照射して最初に起こる即時反応の主役はヒスタミンの遊離で、照射を中断すれば1時間以内に終息する。次いで30分から1時間してキニンが生成され、1時間ないし3時間位してプロスタグランジンが作用し始め12時間位続く。この間、6時間を中心にブラスミンの活性が高まり、とされている。

ここでは消化器系に及ぼす影響に的をしぼって、まずビタミンDの作用について述べ、次いでヒスタミン（ヒスチジン）とプロスタグランジンの作用を中心に、キニン、ブラスミンなどについても、光化学物質が生体

内活性物質として如何に作用するかについて述べることにする。ビタミンDの作用

ビタミンDはあらゆる生理機能に関わっており、消化器系にもさまざまな影響を与えている。以下、その主な作用に触れておく。

(1) ビタミンDのホルモン様作用の標的器官に小腸粘膜の上皮細胞があり、カルシウムの吸収に不可欠なカルシウム結合蛋白を生成する。

(2) 副腎に作用して副腎皮質ステロイドホルモンの分泌を促して抵抗力を高め、ストレスに起因する疾患、例えば神経性胃炎などの治療、予防に有用である。

(3) ビタミンDの直接作用に加えて、間接的にカルシウム代謝を円滑にすることによって、免疫応答を強化し、ウイルス性疾患（ウイルス性肝炎など）や細菌などの病原微生物の関与する疾患（細菌性腸炎、消化性潰瘍など）や免疫異常の関与が疑われる疾患（炎症性腸疾患など）に有効に作用する。

(4) インスリンの分泌を促して糖代謝を改善するので、糖尿病の治療、糖尿病合併症の予防に有効である。

(5) 近年、増加が著しい大腸がんの予防に有益なことが示唆されている。

ヒスタミンの作用

これまでの研究結果から、光線療法により血圧の下降に一致して比較的速やかに胃液の酸度が増すことが明らかにされている。この現象は胃酸の欠乏者において特に強く現れるが、この機序に光線で生成される生体内活性物質のヒスタミンが主として関わっている、と見なされている。このヒスタミンには、細小動脈、毛細血管の拡張作用があり、血管抵抗を減弱して血圧を下降させるのであるが、同時に消化器系の微小循環を促進して血行を良くし、胃を守る防御機構を始め消化器系の抵抗力を高める働きを助けている。加えて、胃で胃液の分泌を促し、胃腸で蠕動運動を促進する作用がある。その結果、食欲が増すのである。

以下、現在までに明らかにされているヒスタミンの作用をまとめておく。

1. 胃液の分泌を促進する

近年になって、ヒスタミンは酸分泌を促すだけでなく、壁細胞（塩酸を分泌する細胞）内で後述するプロスタグランジンの合成を促し、増加したプロスタグランジンが壁細胞に作用して酸分泌を抑制するフィードバックメカニズムが示唆されている。



## (五頁よりづく)

システムのあることが明らかにされている。

2. 胃腸の蠕動運動能を亢進する

筋肉(平滑筋)の収縮作用によって消化管の緊張を高め、蠕動運動能を強める。

3. 消化器系の微小血液循環を改善する

心臓が送り出す血液量の増加に、細小動脈、毛細血管の拡張作用が加わり、消化器系の微小血液循環を改善する効果がある。なお微小循環は消化器系疾患の病因面、殊に消化性潰瘍で重視されており、その停止は防御機構の破綻を意味する。

次に微小循環の果たす主な作用を記す。

(1) 酸素あるいはエネルギーの補給

(2) 粘膜の代謝の調節

(3) 老廃物や水素イオン(酸)の処理

(4) 重炭酸イオン(塩基)の運搬

4. 物質交換を促進する

組織や臓器に活力を与えるには、血液で運ばれたさまざまな物質を組織に与え、組織で生じた老廃物を血液で運んで処理しなければならぬ。このような物質交換に関与する血管透過性を亢進させて物質交換を促進する。

## プロスタグランジンについて

プロスタグランジンには前述したように過度の胃酸の分泌を抑制する作用があるが、それとは関係なく発揮される胃腸の粘膜防御作用、換言すれば細胞保護作用の中心的役割を果たす生体内活性物質である。それ故、消化性潰瘍の予防、治療で重要な役割を果たす物質と言うことが出来る。

次にプロスタグランジンの作用をまとめておく。

(1) 粘液の産生と分泌

(2) 重炭酸イオン分泌の増加

(3) 消化器系の血中への遊離を抑制することによる細胞膜の安定化

(4) ナトリウムポンプの維持

(5) 粘膜血流量の維持

(6) 酸分泌の抑制

(7) 細胞回転の促進

## その他の化学的作用物質

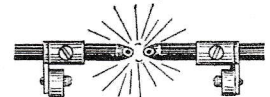
キニン(プレカリクレイン)は、キニンはプレカリクレインにプラスミンが作用してカリクレインになり、これが活性化されたキニノーゲンから合成されるため、カリクレイン-キニン系と呼ばれる。なおキニンにはキニノーゲンとカリジンがあるが、その主な作用は血管拡張作用と血管透過性の亢進である。またプラスミンは前述の作用に加え、フィブリンを分解する酵素として

ての作用があり、血液の凝固を阻止し血流を促進する。そのため微小循環障害を予防し、粘膜防御機構を保持する効果がある。おわりに

光線療法が消化器系に属する器官、臓器に及ぼす影響について大要を述べたが、これまでの記述から、光線が胃腸の機能を活発にして食欲を増し、体力や抵抗力を高める上で有用な治療法になる根拠を理解して頂けたと思う。殊に、胃弱、胃無力症、胃液欠乏症を始め、虚弱体質などのため食欲不振になり中々回復しない症例には、光線療法は補助的にも最も適した治療法となり得る。なお鉄分の吸収を促す作用があり、鉄欠乏性貧血の治療に効果がある。

また消化性潰瘍に対して光線療法はしばしば卓効を奏するが、これまでの消化性潰瘍の症状の発現に周期性を認めることに關する研究から、その効果は主に紫外線の作用に帰することが出来る。と考えられているが、光線によって生成される生体内活性物質の作用から首肯し得るのである。最後に文中で術語(専門用語)を多用したことをお詫びしたい。分かりにくい点のあることを危惧しているが、筆者の意図を汲み取って頂ければ幸甚である。

サナモア



Sanamoa

サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見えない可視光線だけでなく、目には見えないが無くしてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03) 三三九三-五二八二

(本紙の無断転用を禁止します。)